

育てにくさを感じておられませんか

～成長を促すコミュニケーションの

トレーニング(療育)のすすめ～

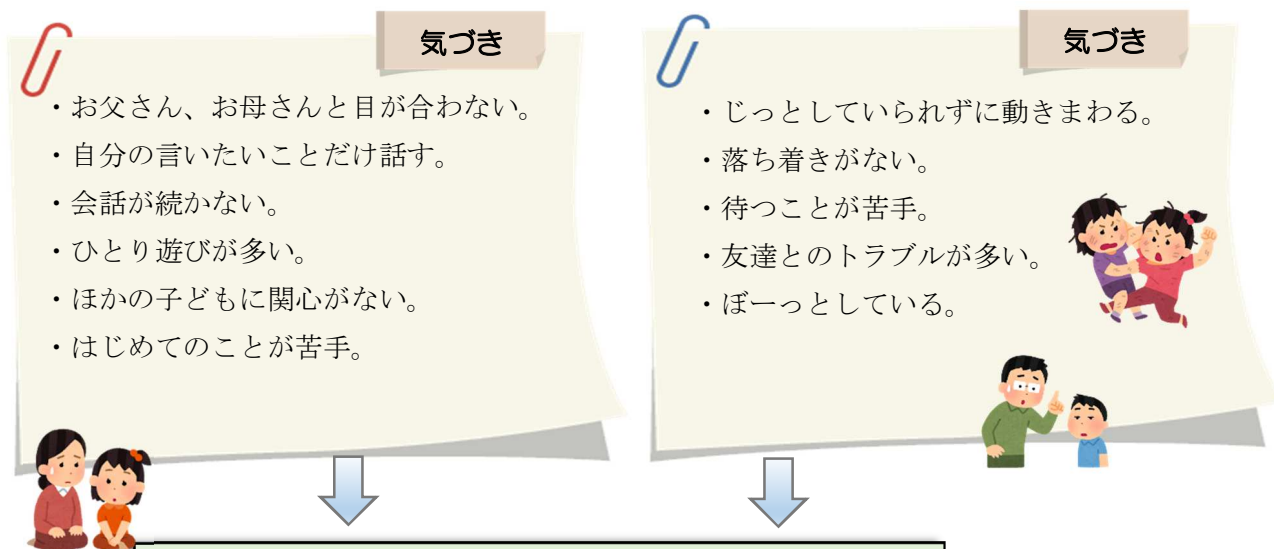


子どもさんに対して、「育てにくさ」を感じることがありませんか？
療育を受けると、子どもの個性(特性)にあわせた育児の方法がわかります。

最近の研究では、早期に療育を受けることで、子どもの発達を促進する可能性があることがわかってきました。

育児のなかで、こんな心配はありませんか？

(保健師への相談で聞かれる、こんな声。)



どうしたらいい？
気になっていることは、お気軽に相談を

発達に関する相談や教室、
療育を利用しましょう。

お気軽にご相談ください。

➡ 連絡先：健康増進課 保健師 ☎0796-24-1127



療育の利用で、

育児はグングン楽になる！

～早期療育の利用を勧める、3つの理由～

すすめる理由 ①

療育を、幼児期に早く開始すると、 自己肯定感、安心感が芽生える。

幼児期は、自分と他人を比べる前の時期

→大人からの承認を求め、援助を受け入れやすい。

○苦手や不得意の感情を出すトレーニングで

手伝ってもらえた⇒達成感!!

○成功体験の積み重ね。

○自己肯定感・安心感が芽生える。



手伝ってもらえた！
達成感がうまれる。



すすめる理由 ②

子どもの行動の意味がわかり、 子どもに合った声掛けができるようになる。

療育では、

- ・お友達との遊び方、付き合い方などのルールを学ぶ。
- ・気持ちの切り替えの方法を学ぶ。
- ・ジェスチャーを交えるなど、気持ちの伝え方を学ぶ。

子どもにかかわる人の声掛けやかかわり方を知ることができる。

まわりの声掛けが変わると子どもも伸びる。







すすめる理由 ③

療育を開始する年齢が早いほど、言葉を理解し表現する力を伸ばす効果が大きい。

アメリカで発表された研究結果から早期療育の効果が検証されている。

(対象児：40人を5年後に追跡調査)

対象児	研究過程	研究結果
発達に課題のある40人	療育を3年間実施	同じ対象児を5年後に調査
おおむね3歳半で療育をスタート 	コミュニケーション能力を伸ばすための支援(療育)を実施  目を合わせたコミュニケーション(共同注視)の支援  見立て遊びの支援	8歳時点で言葉を理解し表現する力が標準をクリア 

※療育の開始は、早く始めることがベストですが、保護者が気づいたタイミングで相談を。

言葉が育つと、考える力や他の子どもへの接し方など社会性が高まります。

<引用文献>NIH Public Access

Published in final edited form as: J Am Acad Child Adolesc Psychiatry . 2012 May ; 51(5): 487-495.

doi:10.1016/j.jaac.2012.02.019.

資料監修：国立成育医療研究センター こころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

診療部長 立花良之 医師より

お子さんが発達の特徴を持っている場合、それに早く気づき、特性に合わせた関わり方をしてあげることが重要です。

早期に療育を受けることで、お子さんのコミュニケーション力や様々な認知能力が向上し、良いところをさらに伸ばしてあげることが期待できます。

早期療育をすすめようとしている豊岡市の取組みを応援しております。

**必見！
教室に参加した保護者の言葉集。**



〈引用文献〉小児の精神と神経 50巻3号 2010.9月号
保健センターにおける親子教室の有効性について

**さあ、START！
療育の種類ではなく、早く始めることが大切。**